

図版八
1区出土遺物



4



5



15



16



1



2



6



11



22



23

図版九
1・2区出土遺物



55



63



64



65

S K107(35・38)、S K108(39)、S D103(55)、S E201(63～65)

図版十
2区出土遺物



69

78



71



90



84



109



112



101



102



113

土器集積201(69)、S K215(71)、S K231(78)、S K242(84)、S K255(90)、S D202(101・109・112・113)

図版十一
1・2区出土遺物



126



127

0 (1:1) 5 cm



116



128



123



129



171



161



170



144



170

S D203(116・123・126・127)、S D204(128)

1区III層内出土遺物(129・144)、1区遺構面検出時出土遺物(161・170・171)

図版十二
2区出土遺物



183



187



207



208



209



210



223

2区造横面検出時出土遺物

IV 東郷遺跡第72次調査 (T G 2008-72)

例 言

1. 本書は、大阪府八尾市光町二丁目32で実施した共同住宅建設工事に伴う発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する東郷遺跡第72次調査(TG2008-72)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が申請者から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成21年1月19日～平成21年2月4日(実働13日)にかけて、木村健明を調査担当者として実施した。調査面積は約203m²である。
1. 現地調査においては、飯塚直世・竹田貴子・田島宣子・中野一博の参加を得た。
1. 本書作成に関わる内業整理業務は、遺物実測ー飯塚、遺物トレースー市森千恵子、その他ー木村が行った。
1. 本書の執筆は木村が行った。

本 文 目 次

第1章 はじめ	141
第2章 調査の方法と経過	143
第3章 調査概要	144
第1節 基本層序	144
第2節 検出遺構と出土遺物	148
第4章 まとめ	153

挿図目次

第1図 調査地位置図	141
第2図 調査区地区割図	143
第3図 1区地層断面図	145
第4図 2区地層断面図	146
第5図 第1面平面図	147
第6図 遺構断面図	149
第7図 2区第2面平面図	149
第8図 第3面平面図	151
第9図 出土遺物実測図	153

表目次

第1表 周辺の既往調査一覧表	142
第2表 第1面遺構一覧表	148
第3表 第2面遺構一覧表	150
第4表 第3面遺構一覧表	152

図版目次

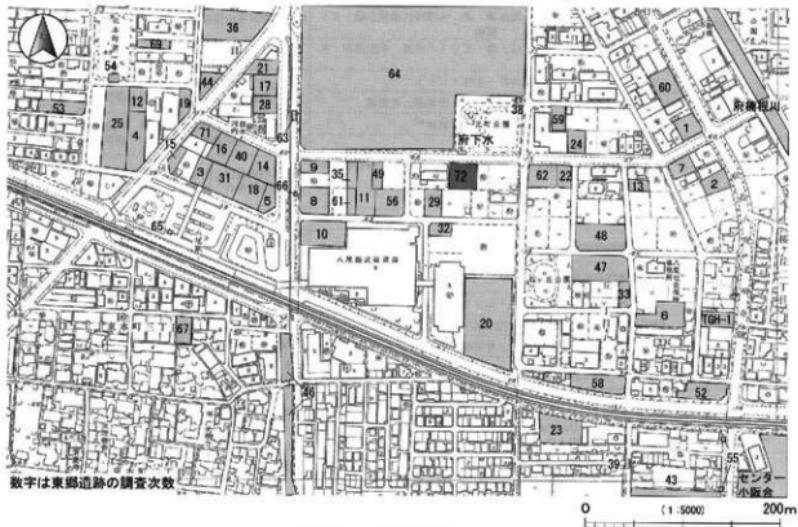
図版 一	1. 1区北壁 2. 2区南壁 3. 2区西壁	図版 四	1. 2区第1面S E 201断面 2. 2区4層・第3面遺物出土状況 3. 2区4層遺物出土状況 4. 2区第3面S D 208遺物出土状況 5. 出土遺物 3 6. 出土遺物 4 7. 出土遺物 10
図版 二	1. 1区第1面 2. 1区第3面 3. 1区第3面		
図版 三	1. 2区第1面 2. 2区第2面 3. 2区第2面		

第1章 はじめに

東郷遺跡は八尾市中央部北西寄りに所在する弥生時代中期～近世に至る複合遺跡である。現在の行政区画では、本町一・二丁目、東本町一～五丁目、北本町二丁目、光町一・二丁目、桜ヶ丘一～四丁目、莊内町一・二丁目、旭ヶ丘一丁目の一部にわたる東西約1.3km、南北約1.0kmがその範囲とされている。

地理的には、河内平野南部の北寄りに位置し、旧大和川水系のうち旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置する。この沖積地上には多数の遺跡が存在しており、当遺跡周辺では、南側に小阪合・成法寺遺跡、北側に宮町・萱振遺跡が隣接する。

当遺跡は、昭和46(1971)年に行われた水道管埋設工事の際、墨書き人面土器が出土したことが発見の契機となっている。その後、昭和55(1980)年に八尾市教育委員会による発掘調査が行われて以来、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、当調査研究会によって多くの発掘調査が実施され、古墳時代初頭～前期を中心とする居住域を構成する堅穴住居・掘立柱建物、墓域を構成する方形周溝墓・墳墓、生産域を構成する畠畔・水田などが検出されており、当該時期の遺構群の推移が確認されている。



第1図 調査地位置図

第1表 周辺の既往の調査一覧表

次数	調査年	面積(m ²)	遺構・遺物		文献
			遺構	遺物	
1	1981	82	古墳時代前期土器、後期土坑、古代建物、井戸		『八尾市南調査、東塔跡発掘調査報告』八尾市文化財調査報告6 1981 市教委
2	1981	9	古墳時代後期土坑、古代窓込み		
3	1981	64	弥生時代後期土器、古墳時代前期窓状堆積、中世水田		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 1980・1981年度』1983 市教委
4	1981	125	古墳時代前期井戸、土坑、中世水田		
5	1981	196	古墳時代前期井戸、溝、土坑、住居跡、中世水田		
6	1981	40	古墳時代前期井戸、ビット、古墳時代後期土坑		
7	1981	200	古墳時代中期～後期土坑、ビット		未報告
8	1981	565	古墳時代前期窓住居跡、土坑		
9	1981	210	古墳時代前期井戸、土坑、溝		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 1980・1981年度』1983 市教委
10	1982	621	弥生時代中期土器、古墳時代前期土坑、溝		
11	1982	500	古墳時代前期住居跡、井戸、土坑、溝、中世井戸		
12	1982	200	古墳時代前期土坑、溝、中世井戸、水田		
13	1982	200	弥生時代後期～古墳時代前期土器、古墳時代中期土坑、ビット、中世井戸		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和53年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告17 1989 研究会
14	1983	480	古墳時代前期住居跡、土坑、ビット、中世井戸、土坑		
15	1983	300	弥生時代中期土坑、中世水田		
16	1983	200	古墳時代前期土坑、溝		
17	1983	480	古墳時代前期方形周溝墓、土器集積、土坑、古墳時代後期土坑、中世ビット、溝		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和59年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告6 1985 研究会
18	1984	546	古墳時代前期井戸、土坑、溝、中世土坑		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和59年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告17 1989 研究会
19	1985	207	古墳時代後期土坑、溝、ビット、古墳時代後期溝		『八尾市南調査昭和60年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告12 1986 市教委
20	1985	1,665	古墳時代前期方形周溝墓、土器集積、土器裕蓋、土坑、中世溝、近世井戸		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和51年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告13 1987 研究会
21	1986	80	古墳時代前期方形周溝墓、溝、埴輪、中世溝		『東洋考古学第21次埋蔵文化財発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告13 1986 市教委
22	1986	98	古墳時代前期建物、溝		『八尾市門脇跡昭和61年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告14 1987 市教委
23	1987	598	古墳時代前期土坑、溝、ビット		『東洋考古学第22次、第24次発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告29 1991 研究会
24	1987	258	弥生時代後期土坑、土器集積、溝、古墳時代前期土坑、ビット、古墳時代中期窓跡		
25	1987	900	古墳時代前期井戸、土坑、溝、ビット、水田、中世井戸、木戸		『(財)八尾市文化財調査研究会報告45』1995 研究会
26	1988	150	古墳時代前期窓跡、中世井戸、土坑、ビット		『八尾市文化財調査研究会報告 昭和63年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告25 1989 研究会
29	1989	220	弥生時代後期溝、古墳時代前期窓、中世窓、近世溝		
31	1989	660	古墳時代前期土坑、溝、ビット、近世井戸		『八尾市文化財調査研究会報告 平成元年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告28 1990 研究会
32	1989	130	古墳時代前期溝	落込み	
33	1990	200	弥生時代前期土器集積、古墳時代前期窓上坑、古代建物跡、井戸、中世窓込み		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告41 1993 研究会
35	1991	140	古墳時代前期住居跡、土坑、溝、近世溝		
36	1991	550	古墳時代前期溝、落込み		『(財)八尾市文化財調査研究会報告97』2007 研究会
38	1992	9	古墳時代中期溝		『八尾市埋蔵文化財調査研究会報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告34 1992 研究会
39	1992	50	古墳時代中期窓		『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告39 1993 研究会
40	1993	352	古墳時代前期井戸、土坑、ビット、溝、近世井戸		『(財)八尾市文化財調査研究会報告12』1994 研究会
43	1994	306	古墳時代前期土器物、古代土坑、ビット、溝、中世溝		
44	1994	370	古墳時代前期土器物、土坑、中世溝		『(財)八尾市文化財調査研究会報告61』1998 研究会
46	1994	1,500	弥生時代中期ビット、古墳時代前期ビット、河川、中世溝		『東洋考古学』(財)八尾市文化財調査研究会報告48 1995 研究会
47	1994	760	古墳時代前期土坑、溝、古墳時代中期窓跡、土坑、古代建物、井戸		『平成5年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』1995 研究会
48	1994	630	古墳時代前期窓跡、土器集積、土器窓、土坑、溝、河川、古墳時代中期土坑、溝、ビット、古代建物、土坑、溝		
49	1995	140	弥生時代中期土坑、古墳時代前期土坑、溝、中世井戸、中世土坑、溝、ビット		『(財)八尾市文化財調査研究会報告54』1996 研究会
52	1996	180	古代土坑、溝、ビット、中世土坑		『(財)八尾市文化財調査研究会報告60』1998 研究会
53	1996	100	弥生時代後期～古墳時代前期土坑、溝、ビット		
54	1997	61	古墳時代前期土坑、溝、中世井戸、溝、落込み		『(財)八尾市文化財調査研究会報告66』2000 研究会
55	2000	16	古墳時代前期土器、中世土器		『(財)八尾市文化財調査研究会報告67』2001 研究会

次数	調査年	面積(m ²)	遺構・遺物	文献
56	2000	422	古墳時代前期窪・埴輪・井戸	『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告4 平成14年度』 2003 市教委・研究会
58	2002	276	古墳時代前期井戸・土坑・溝・ピット・落込み・古墳時代中期窪	『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告6 平成16年度』 2005 市教委・研究会
59	2003	250	古墳時代前期土坑・溝・古墳時代後期窪・中世土坑	『(財)八尾市文化財調査研究会報告90』2006 研究会
60	2003	450	古墳時代無縫井戸・土坑・溝	『平成15年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』 2004 研究会
61	2003	67	古墳時代前期井戸	『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告5 平成15年度』 2004 市教委・研究会
62	2003	438	古墳時代前期土坑・古代土坑・中世土坑	『(財)八尾市文化財調査研究会報告90』2006 研究会
63	2004	42	古墳時代前期土坑・古代土坑・近世井戸	『(財)八尾市文化財調査研究会報告6』2005 研究会
64	2005	12,160	古墳時代前期窪・土坑・溝・古代ピット・井戸・土坑・中世井戸・土坑・溝	『平成17年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告』 2006 研究会
65	2005	10	古墳時代前期落込み・古墳時代後期落込み	『(財)八尾市文化財調査研究会報告99』2007 研究会
66	2006	9	なし	『(財)八尾市文化財調査研究会報告91』2006 研究会
67	2006	48	古墳時代前期土坑・溝	『(財)八尾市文化財調査研究会報告97』2007 研究会
69	2007	187	弥生時代後期土坑・溝・古墳時代中期～後期窪・中世窪・近世井戸	『(財)八尾市文化財調査研究会報告127』2009 研究会
71	2008	302	弥生時代後期窪・古墳時代前期井戸・土坑・溝・落込み・近世井戸・土坑	『(財)八尾市文化財調査研究会報告127』2009 研究会
72	2009	203	弥生時代中期以降河川・古代土坑・溝・中世～近世溝	本書
TGII-1	1999	120	古墳時代前期窪・落込み・土坑・溝・古代窪・土坑	『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告1』2000 市教委・研究会
府前橋川	1987		縄文時代以降河川・弥生時代中期土坑・古墳時代前期土坑・古代土坑・中世窪	『東郷遺跡発掘調査概要・I』1989 大阪府教育委員会
府下水	2002	120	調査後期～発堀・弥生時代中期～後期土器・近世溝	『中田選勝地盤調査報告書』大阪府埋蔵文化財調査報告 2002-3 2003 大阪府教育委員会
センターアーク	1997	6,135	弥生時代中期～後期土器・古墳時代中期建物跡・土坑・落込み・河川・古代建築跡・井戸・河川・中世井戸・土坑	『小阪合発掘』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第51集 2000 (財)大阪府文化財調査研究センター

第2章 調査の方法と経過

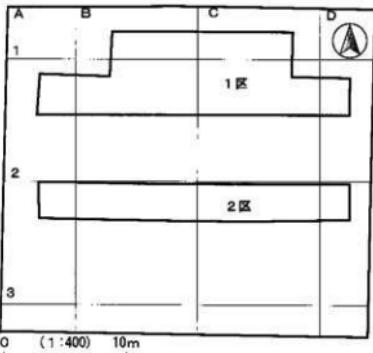
今回の調査は共同住宅建設に伴って当調査研究会が東郷遺跡内で行った第72次調査である。

事前に行われた遺構確認調査(東郷遺跡2008-344)によって、遺構の存在が確認されたため、建物本体の基礎工事によって破壊される範囲について本調査を実施することになった。調査区は北側(1区)と南側(2区)の2ヶ所に分かれており、調査面積は1区128m²、2区75m²の合計203m²である。

地区割は1区北西隅に設定した任意の点を基準として、調査地内を10m四方のメッシュで割り付けた(第2図)。掘削は現地表下1.3mまでを機械掘削、それ以下を人力掘削によって調査を行った。

調査面は機械掘削終了後に人力によって検出した面を「第1面」と呼称し、上から順に調査面番号を付した。

遺構名は遺構略号・調査区名・遺構番号の組み合わせで表している。(例、 S D103→1区で検出した3番目の溝の意味)



第2図 調査区地区割図

第3章 調査概要

第1節 基本層序

今回の調査地は、調査着手以前は水田及び畑地として利用されていた。しかし耕作土直下には1.0mほどの盛土がなされており、その下に旧耕作土が存在する。また、1区ではヒューム管や、コンクリートを伴う搅乱が存在した。搅乱は旧耕作土の上面から切り込むものと、耕作土に覆われるものが存在する。

基本層序として、5層を確認した。遺構面は1区で2面、2区で3面を検出している。

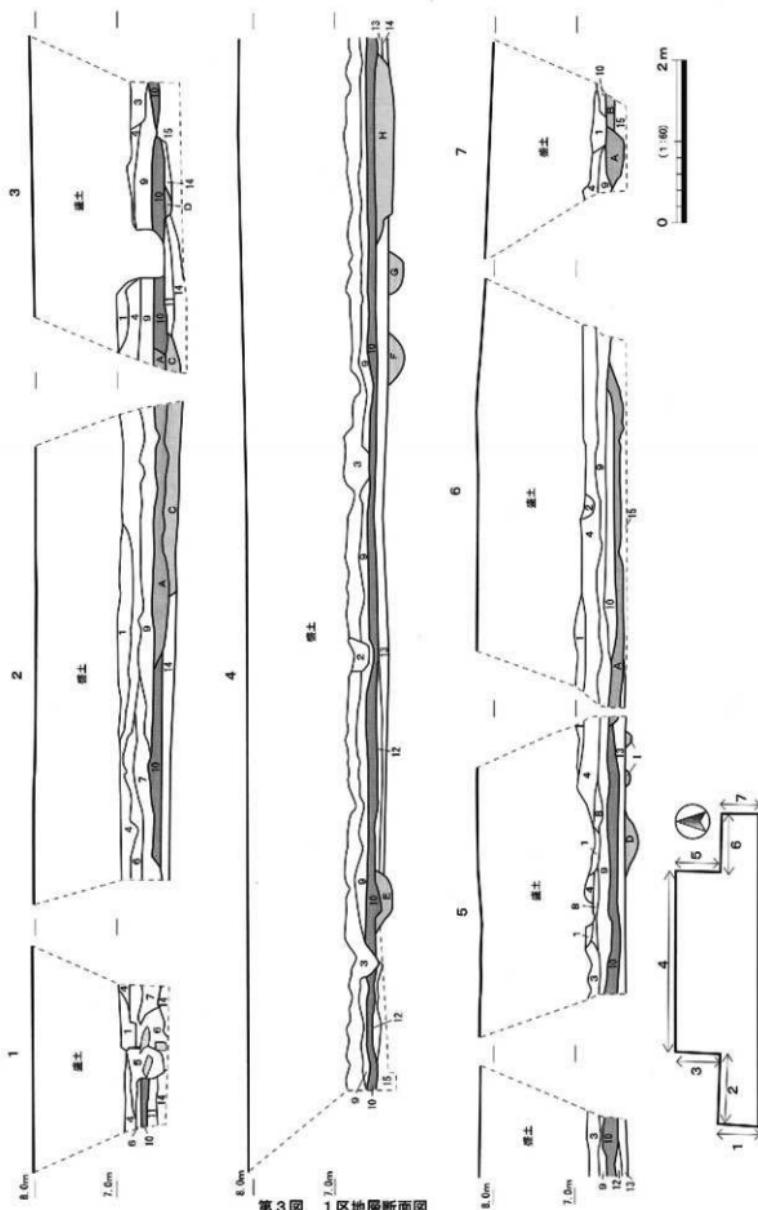
- 1層 盛土が成される以前の旧耕作土である。層厚は20cm程度を測る。
- 2層 近世以降の耕作土と思われる。この層まで機械掘削を行った。灰黄褐色粗粒砂混じり粘質シルト層で、層厚は10cm程度である。1区ではこの層上面から切り込む搅乱が存在する。
- 3層 上面で第1面(T.P.+6.7m)を検出した。褐灰色～灰黄褐色粗粒砂混じり粘質シルト～粘土層で、1区では上面に鉄分が沈着する。1区では3層中にも近世の染付碗などを含み、近世に形成された層と考えられる。層厚は16cm程度を測る。
- 4層 褐灰色粘質シルト層で、層厚は12cm程度を測る。2区では上面で第2面を検出した。(T.P.+6.5m) 2区では層中に弥生土器中期・後期の土器を含む。

1区層名

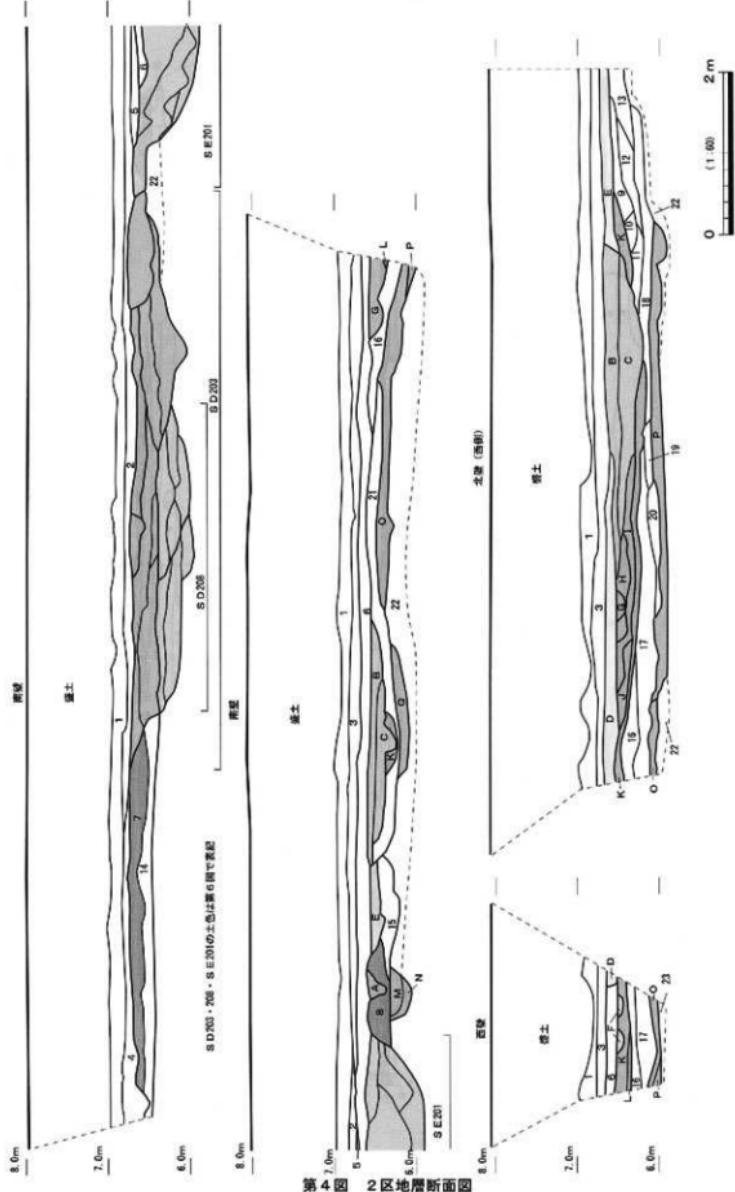
1: 褐灰色(10YR5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	1層	14: 黄灰色(2.5Y6/1)粘土	6層
2: 暗灰色(N3)粗粒砂混じり粘質シルト		15: 灰色(5Y5/1)粗粒砂	
3: 暗灰色(N3)粗粒砂混じり粘質シルト	A	A: 灰色(5Y5/1)粘質シルト (S D103埋土)	
4: 灰色(N4)粗粒砂混じり粘質シルト	B	B: にぶい褐色(7.5YR5/4)粗粒砂混じり粘質シルト (S D104埋土)	
5: 灰色(N4)粗粒砂混じり粘質シルト	C	C: 灰色(5Y5/1)粘土 (褐色(7.5YR4/4)粗粒砂混じる) (S X101埋土)	
6: 灰色(N6)粗粒砂混じり粘質シルト	D	D: 褐灰色(10YR6/1)粗粒砂 (S D107埋土)	
7: 黄灰色(2.5Y5/1)粘質シルト	E	E: 褐灰色(10YR4/1)粗粒砂 (S D105埋土)	
8: 灰黃褐色(10YR5/2)粗粒砂混じり粘質シルト	F	F: 灰褐色(7.5YR4/2)粗粒砂 (S K105埋土)	
9: 黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	G	G: 灰黄色(5Y6/2)粗粒砂混じり粘質シルト (S D106埋土)	
10: 褐灰色(7.5YR4/1)粗粒砂混じり粘質シルト (上面に鉄分が沈着する。3層)	H	H: 褐灰色(10YR6/1)粗粒砂 (S K104埋土)	
11: 褐灰色(10YR6/1)粘質シルト	I	I: 黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト (S D110-111埋土)	
12: 褐灰色(10YR5/1)粘質シルト			
13: 褐灰色(10YR5/1)粗粒砂			

2区層名

1: 暗灰色(N3)粗粒砂混じり粘質シルト (旧耕作土・1層)	12: 黄灰色(2.5Y6/1)粗粒砂混じり粘質シルト	K: 黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘土	S D206埋土
2: 綠灰色(10G6/1)粘土	13: 綠灰黄色(2.5Y5/2)粘質シルト混じり粗粒砂	L: 暗灰色(N3)粗粒砂混じり粘質シルト	
3: 灰黃褐色(10YR6/2)粘質シルト	14: にぶい黄褐色(10YR7/3)粗粒砂	M: 褐灰色(10YR4/1)粗粒砂混じり粘質シルト	
4: 褐灰色(10YR5/1)粘質シルト	15: 黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘土	N: 褐灰色(10YR4/1)粗粒砂	
5: 綠灰色(5G5/1)粘土	16: 暗灰黄色(2.5Y5/2)粗粒砂混じり粘質シルト～粘土	O: 灰褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト	
6: 灰黃褐色(10YR5/2)粘質シルト	17: 灰色(7.5Y6/1)微粒砂混じり粘質シルト	P: 暗灰色(N3/1)粘土	
7: 灰褐色(5YR4/2)粗粒砂	18: 黄灰色(2.5Y5/2)粘土混じり粗粒砂	Q: 灰色(7.5Y5/1)粘土	
8: 灰黃褐色(10YR5/2)粗粒砂混じり粘土	19: 反灰黄色(2.5Y7/2)粗粒砂		
9: 明黃褐色(10YR6/6)粘土	20: 灰色(5Y6/1)微粒砂混じり粘質シルト		
10: 黄灰色(2.5Y6/1)粗粒砂混じり粘土	21: 黄灰色(2.5Y6/1)微粒砂		
11: 褐灰色(10YR6/1)粘質シルト	22: 反灰黄色(2.5Y6/2)粗粒砂		5層

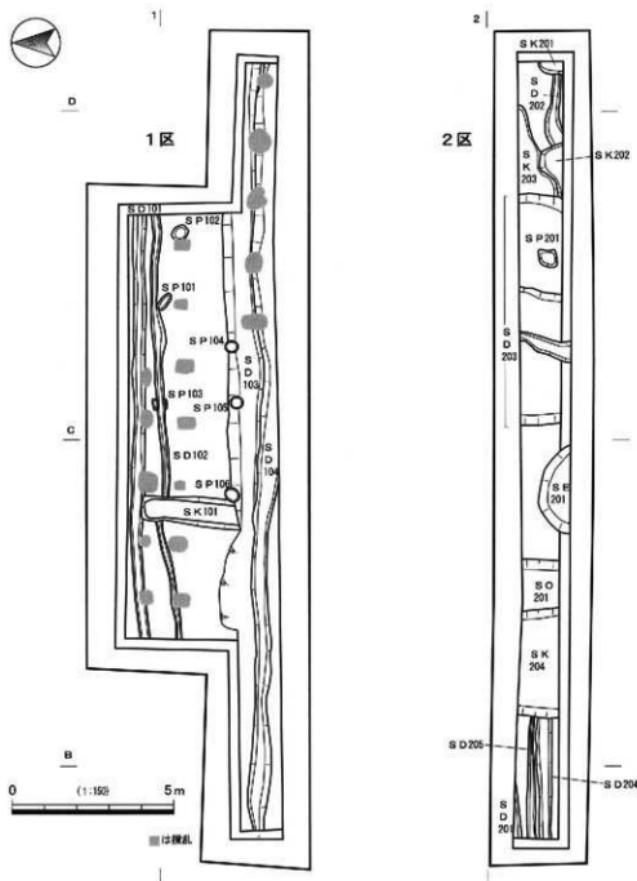


第3図 1区地層断面図



第4図 2区地層断面図

5層 灰色～灰黄色粗粒砂層である。上面で第3面(T.P.+6.0～6.4m前後)を検出した。今回
は上面で調査を終了したが、遺構確認調査では層厚は1.3m以上あることが確認されて
いる。また、道路を挟んだ北側で大阪府教育委員会が実施した下水道工事に伴う調査で
は2.4mの厚さで堆積し、縄文土器や弥生土器が出土している。



第5図 第1面平面図

第2節 検出遺構と出土遺物

第1面(第5図) 第1面は2層を除去して検出した遺構面であり、T.P.+6.7m前後を測る。

1区では溝4条(S D101~104)・土坑1基(S K101)・ピット6基(S P101~106)、2区では溝5条(S D201~205)・土坑4基(S K201~204)・井戸1基(S E201)・落込み1基(S O201)・ピット1基(S P201)を検出した。1区での出土遺物の様相から、近世の遺構面と考えられる。

また第1面で検出した遺構の詳細は第2表にまとめた。

第2表 第1面遺構一覧表

遺構名	地 区	法量(cm)			埋 土	出 土 遺 物
		長さ	幅	深さ		
S D101	1B・C	(1300)	35	8	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器
S D102	1B・C	(1300)	25	11	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	
S D103	1A~D	(2450)	110	22	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	
S D104	1A~D	(2450)	60	15	にぶい褐色(7.5YR5/4)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器・須恵器・瓦・白磁
S D201	3 A	350	(30)	14	灰黃褐色(10YR5/2)粘質シルト	土師器
S D202	3 C・D	(410)	40	9	灰褐色(7.5YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト	
S D203	3 C	140	700	61	第6図に掲載	土師器・須恵器
S D204	3 A・B	(840)	40	10	灰黃褐色(10YR5/2)粘質シルト	
S D205	3 A・B	(840)	30	10	灰黃褐色(10YR5/2)粘質シルト	
S P101	1 C	60	6	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト		
S P102	2 C	50	40	5	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	
S P103	1 C	40	30	10	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器・陶器
S P104	2 C	40	30	17	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器
S P105	2 C	40	40	17	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器・黒色土器
S P106	2 B	50	10	6	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	
S P201	3 C	60	50	7	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器
S K101	2 B	(300)	90	7	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	近世陶器・瓦貸土器・土師器
S K201	3 D	(80)	(40)	13	灰黃褐色(10YR5/2)粘質シルト	
S K202	3 C	(160)	(70)	7	灰黃褐色(10YR4/2)粘質シルト	
S K203	3 C	(270)	(120)	7	灰黃褐色(10YR4/2)粘質シルト	土師器・氣恵器
S K204	3 B	(130)	340	22	黄灰色(2.5Y6/1)粘土	
S E201	3 B	(250)	100	72	第6図に掲載	
S O201	3 B	(840)	(120)	20	褐色(10YR6/1)粘質シルト	土師器・須恵器

S D101~104・201・202・204・205

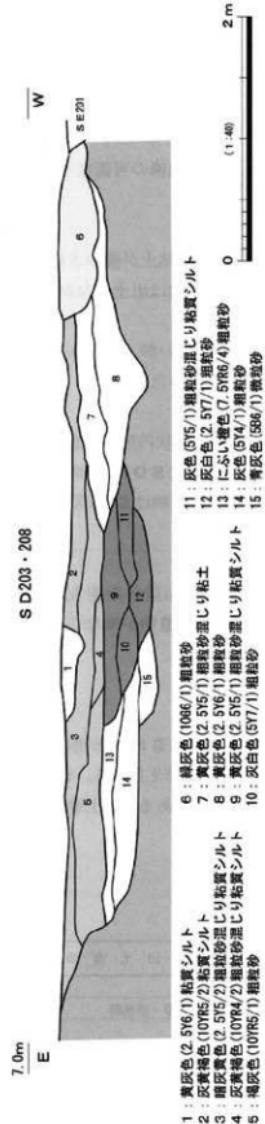
いずれも東西方向に延びる。S D103・104は他のものより規模が大きい。断面形態はいずれも皿状を呈する。遺物はS D101・104・201から出土したが、細片のみで図化しえなかつた。

S D203

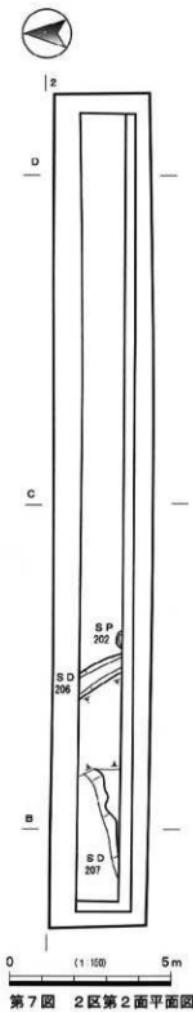
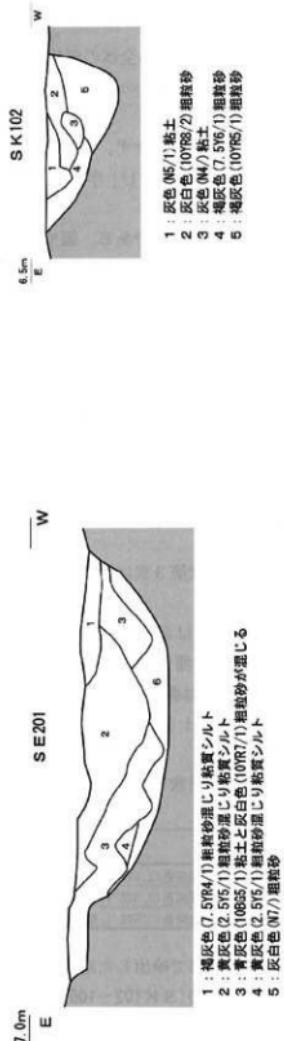
南北方向に延びる。調査時点では東西7m程の部分を一括して一本の溝と認識していたが、断面図(第6図)を検討した結果、複数の溝が切り合う状態を確認することができる。また溝というよりは、流路とした方が良いかもしれない。後述する第3面検出のS D209もこの流路の最下層にある。2区ではほぼ方位に沿った方向で検出したが、調査区の幅が狭いため、明確ではない。1区で延長を検出してないので、1区との間で収束するか、1区の外側を通っているのである。遺物は土師器・須恵器が出土し、1を示した(第9図)。1は須恵器蓋である。宝珠形つまりをもち、天井部外面に自然釉薬が付着する。奈良時代~平安時代初期に比定できる。

S K101

平面形態は南北方向に細長い長方形状、断面形態は皿状を呈する。南端はS D103に切られ、北側でS D101・102を切る。遺物は細片のみで図化しえなかつた。



第6図 調査断面図



第7図 2区第2面平面図

S K201~203

2区西端で検出した不定形の土坑である。いずれも調査区外へ続くため全体の形状は不明である。遺物はS K203から出土したが、細片のみで図化しえなかった。

S K204

2区西部で検出した。調査区外に続くため全体の形状は不明である。溝状遺構の可能性もある。断面形状は皿状を呈する。遺物は出土しなかった。

S E201(第6図)

北側のみを検出した。井戸枠などは検出せず、水も湧かなかつたが、砂と粘土が攪拌された埋土の状態から井戸と判断した。断面形状は「U」字状で深さ72cmを測る。遺物は出土しなかった。

S X201

2区西部で検出した西側へ下がる落込みである。図では表現しきれていないが、落込み掘削後にS K204・S D204・205を検出している。遺物は細片のみで図化しえなかった。

S P101~106・201

S P101は平面形状楕円形、断面形状皿状を呈する。S P102~106は平面形状円形、断面形状皿状を呈する。S P201は平面形状四角形、断面形状は皿状を呈する。S P103はS D102に切られている。S P104~106はS D103、S P201はS D203の埋没後に掘り込まれる。遺物はS P103~105・201から出土したが、いずれも細片で図化しえなかった。

第2面(第7図) 第2面は2区西端で確認した遺構面であり、T.P.+6.5m前後を測る。S D204・205、S K204に切られた状態で、S D206・207、S P202を検出した。遺物が少なく時期は不明である。

また第2面で検出した遺構の詳細は第3表にまとめた。

S D206・207

S D206は北西~南東方向、S D207は北東~南西方向に延びる。両者の間にS K204が掘削されており、一本の溝かは不明であるが、埋土の様相が似ており、一連の遺構と考えられる。S D206は断面形状が皿状を呈する。S D207は南肩を検出したのみで、形状は不明である。出土遺物はS D206から土師器・須恵器の細片が出土したが図化しえなかった。

S P202

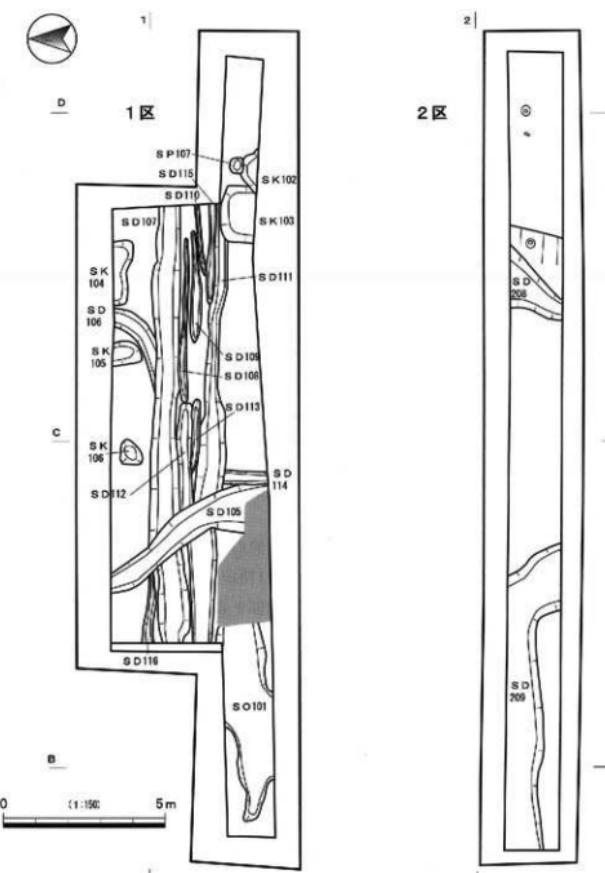
北端のみを検出した。断面形状は皿状を呈する。遺物は出土していない。

第3表 第2面遺構一覧表

遺構名	地 区	法量(cm)			埋 土	出 土 遺 物
		長さ	幅	深さ		
S P202	3 B	(50)	(20)	20	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘土	-
S D206	3 B	(150)	50	18	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘土	土師器・須恵器
S D207	3 A	(400)	(150)	20	黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘土	-

第3面(第8図) 第3面は5層上面で検出した遺構面であり、T.P.+6.0~6.4m前後を測る。1区で溝11条(S D105~116)・土坑5基(S K102~106)・ピット1基(S P107)・落込み1基(S O101)、2区で溝2条(S D208・209)を検出した。弥生時代~古代の遺構面と考えられる。

また第3面で検出した遺構の詳細は第4表にまとめた。



第8図 第3面平面図

SD105・106・114

SD105は1区を南北にやや蛇行して縦断する溝である。断面形状は皿状を呈する。東西方向の溝(SD107・111・112)を切る。土師器・須恵器・瓦が出土し、2を図示した(第9図)。2は丸瓦である。凹面は布目压痕が認められ、凹面の側縁側及び凸面はナデを施す。SD106は1区北側で検出した屈曲する溝である。断面形状は皿状を呈する。遺物は出土していない。SD114は1区南端で検出した南北方向の溝である。断面形状は皿状を呈する。瓦器の細片が出土したが、図化しえなかった。

第4表 第3面遺構一覧表

遺構名	地 区	法量 (cm)	幅	深さ	埋 土	出 土 遺 物
S D105	1・2 B (550)	90	22		褐色(10YR4/1)粗粒砂	土師器・須恵器・瓦
S D106	1 C (200)	60	20		灰褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘土	
S D107	2 B・C (1350)	90	10		黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器・須恵器・瓦
S D108	2 C 500	30	7		灰色(5Y6/1)粗粒砂	
S D109	2 C 350	30	8		黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂	
S D110	2 C (220)	20	8		黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト	
S D111	2 B・C (1350)	90	30		黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト	土師器・須恵器・瓦質土解
S D112	2 B・C (350)	50	19		褐灰色(10YR6/1)粗粒砂	
S D113	2 B・C (220)	30	7		黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂	
S D114	2 B (140)	40	8		灰色(10Y5/1)粗粒砂	瓦器
S D115	2 C (310)	20	5		黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト	陶器・須恵器・土師器
S D116	1 B (220)	30	10		黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト	
S D208	3 C 150	250	44		第6図に掲載	弥生土器・土師器
S D209	3 A・B 950	200	10		第4図に掲載	弥生土器ないし土師器
S P107	2 C 50	40	15		灰白色(10YR7/1)粗粒砂 褐灰色(10YR4/1)粘質シルトブロック混じる	
S K102	2 C (150)	(50)	60		第6図に掲載	
S K103	2 C 170	(100)	50		黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂	
S K104	1 C (200)	(50)	20		褐灰色(10YR5/1)粗粒砂	
S K105	1 C (90)	70	20		灰褐色(7.5YR4/2)粗粒砂	土師器
S K106	1 B 70	70	15		灰褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘土	
S O101	2 A・B (600)	150	15		灰色(5Y6/1)粘土	瓦

S D107~113・115・116

いずれも東西方向に延びる溝である。S D107・S D111は他のものより規模が大きい。いずれも断面形状は皿状を呈する。遺物はS D107・S D111・S D115から出土し、S D111出土の3を図示した。3は土師器鍋である。口縁端部は面をなし、口縁部と体部の境にヨコナデにより段が生じる。外面に煤が付着する。奈良時代後半頃か。

S D208(第6図)

2区で検出した南北方向の溝(流路)である。S D208として幅2.5mの溝として捉えたが、西側は一段深くなる。S D203の項でも記述したように、S D208を検出した場所は、複数の流路が切り合っており、S D208はその最下層にあたる。遺物は弥生土器(4)が出土した。4は中期の高杯である。S D208からは杯部が完形で出土し、東側の4層中から脚柱部が出土した。本来は4層中に含まれていたものと考えられる。完全には接合しないが、胎土の状態から同一個体と判断できる。筒状の脚部から上外方へ大きく広がる杯部を持つ。端部は屈折して大きく垂下する。杯部内面と口縁部境に凸帯がめぐる。垂下した口縁外面と内面端部に櫛痕波状文を施す。また杯部内面に赤色顔料によって放射状に線が描かれる。裾部は脚部から屈曲して広がり、端部は面をなす。据部に直径5mmの円孔を6ヶ所穿つ。

S D209

2区西側で検出した「L」字状を呈する溝である。断面形状は皿状を呈する。土師器ないし弥生土器の細片が出土したが図化しえなかつた。

S K102(第6図)

1区東端で検出した。埋土は砂と粘土が攪拌された状態で、2区第1面で検出したS E201と似ており、同様に井戸の可能性がある。断面形状は逆三角形状を呈する。遺物は出土していない。

S K103~106

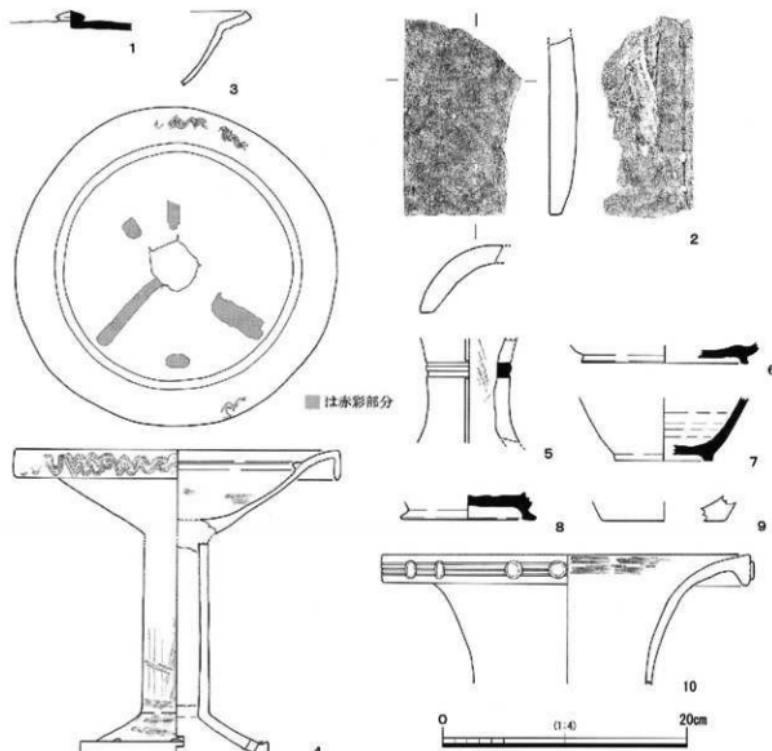
S K103は北側を検出した方形を呈する土坑である。断面形状は「U」字状を呈する。**S K104・105**は南端を検出した。いずれも断面形状は皿状を呈する。**S K106**は平面形状が三角形に近い円形を呈する。断面形状は台形状を呈する。遺物は**S K105**から土師器の細片が出土したが図化しえなかつた。

S P107

S K102を切るピットで、平面形状は円形、断面形状は台形状を呈する。遺物は出土していない。

S X101

1区西端で検出した不定形の落込みである。東端は第1面搅乱や**S D103・104**によって破壊されている。遺物は瓦の小片が出土したが図化しえなかつた。



第9図 出土遺物実測図

遺構に伴わない遺物(第9図、図版四)

今回の調査では遺物の量は希薄で、かつそのほとんどが細片であったが、その時期は弥生時代中期～近世に及ぶ。また遺物の時期は1区と2区で大きく異なり、弥生時代の土器は2区、古墳・古代の土器は1・2区、近世は1区でそれぞれ出土している。両調査区の間隔は5m程であるが、その差は明瞭である。出土した遺物のうち、図示したものは5～10である。5は2区機械掘削時に出土した須恵器高杯である。脚柱部の破片で、長方形透かし孔を2段に穿つ。透かしの間に回線2条を施す。古墳時代後期に比定できる。6は須恵器杯Bである。2区側溝掘削時に出土した。底径13.6cmを測る。断面台形の高台をもつ。7・8は須恵器壺底部である。7は2区第1面検出時の出土で、底径5.1cmを測り、底部内面に自然釉が付着する。8は1区3層の出土で、底径10.8cmを測る。9は弥生土器壺底部である。2区第3面精査時出土である。平底をもち、底径10.0cmを測る。摩滅が著しい。10は弥生土器壺の口縁部である。口縁部は完形である。外方へ広がり、端部は下方に拡張し、面をなす。端面には回線文3条を施し、円形浮文2個一対のものを8組貼り付ける。弥生時代後期前半に比定される。

第4章　まとめ

今回の調査では、弥生時代～近世の遺構・遺物を確認した。しかし、調査区の幅が狭く、遺構の全容を把握できたものが少ない上、出土遺物は細片が多いため、不明な点が多いが、合計3面の遺構面を確認し、いくつかの成果を上げることができた。

第1面は、近世の遺構面で、耕作関連と考えられる溝群と、2区で流路(S D203)を検出した。

第2面は、2区西端で確認した遺構面で、「L」字状に繋がる可能性のある溝(S D206・207)を検出した。遺物が細片のため、時期は不明である。

第3面は、1区で耕作関連と考えられる溝群を、2区で流路(S D208)と「L」字状の溝(S D209)を検出した。2区では弥生土器が出土しており、弥生時代～古代墳の遺構面と考えられる。

東郷遺跡ではこれまで古墳時代前期の遺構・遺物が多量に検出されており、その様相が把握されてきているが、今回は該期の遺構・遺物は出土しなかった。一方で、今回の調査では弥生時代中期と後期の土器が完形に近い状態で各1点出土した。弥生時代中期の遺構はほとんど確認されおらず、第10次調査で土器が出土し、第15・49次調査で土坑、第46次調査でピットを検出した程度である。一方後期は、第24・29・33・69・71次の各調査で遺構が確認されているが、現時点では点的な確認にすぎない。今回の調査区の周辺では、南西に隣接する第29次調査において溝2条が検出され、ほぼ完形の鉢・長頸壺が1点ずつ出土している。このことから、今回の2区より南側に弥生時代の遺構が存在する可能性が考えられる。

図 版



1. 1区北壁

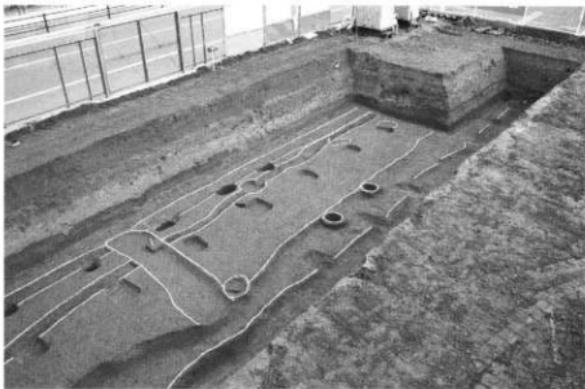


2. 2区南壁



3. 2区西壁

図版二



1. 1区第1面（南西から）



2. 1区第3面（東から）



3. 1区第3面（南から）



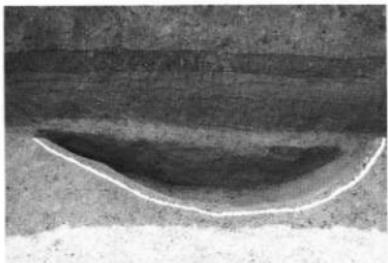
1. 2区第1面（東から）



3. 2区第3面（東から）



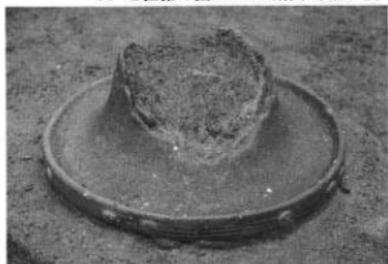
2. 2区第2面（東から）



1. 2区第1面S E 201断面（北から）



2. 2区第4層・第3面遺物出土状況（西から）



3. 2区第4層遺物出土状況（西から）



4. 2区第3面S D 208遺物出土状況（西から）



5. 出土遺物



3



4

6. 出土遺物



10

7. 出土遺物

報告書抄録

ふりがな 書名	とうごういせき 東郷遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	財団法人 八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	130
編集者名	1・II 原田昌則 重橋口 真 IV木村健明
編集機関	財団法人 八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目 58-2 TEL・FAX 072-994-4700
発行年月日	西暦 2010 年 3 月 31 日

ふりがな 所取調査名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とうごういせき 東郷遺跡 (第 47 次調査)	大阪府八尾市桜ヶ丘 一丁目	27212	37	34° 37' 35.46"	135° 36' 39.06"	19940801 ~ 19940930	約 760	共同住宅 建設
とうごういせき 東郷遺跡 (第 48 次調査)	大阪府八尾市桜ヶ丘 一丁目	27212	37	34° 37' 36.37"	135° 36' 38.97"	19940801 ~ 19940930	約 760	共同住宅 建設
とうごういせき 東郷遺跡 (第 50 次調査)	大阪府八尾市桜ヶ丘 二丁目	27212	37	34° 37' 42.05 秒	135° 36' 41.18"	20030506 ~ 20030611	約 450	共同住宅 建設
とうごういせき 東郷遺跡 (第 72 次調査)	大阪府八尾市 桜ヶ丘二丁目	27212	37	34° 37' 38.45"	135° 36' 33.42"	20090119 ~ 20090204	約 203	共同住宅 建設

所取調査名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東郷遺跡 (第 47 次調査)	集落	古墳時代前期前半(布留式古柏)	壇・土器集積	古式土師器・石製品	
		古墳時代中期後半	土坑	土師器・須恵器	
		飛鳥時代前期～平安時代初期	獨立柱建物・井戸・土坑・溝・小穴	土師器・須恵器・羽口・瓦・砾石・繩	
東郷遺跡 (第 48 次調査)	集落	古墳時代前期前半～後半(布留式古柏～新柏)	壁穴化居・土坑・溝・小穴・十脚集積・落ち込み	古式土師器	
		古墳時代中期	土坑・溝・小穴	土師器・須恵器・木製品(槽)・邵材・砾石	
		飛鳥時代前期～平成時代前期	独立柱建物・土坑・溝・小穴	土師器・須恵器・墨色十脚	
東郷遺跡 (第 60 次調査)	集落	古墳時代前期(布留式新柏)	土坑	古式土師器	
		古墳時代中期末～後期前	土坑・溝	土師器・須恵器・埴輪・製塩十器・白玉	
東郷遺跡 (第 72 次調査)	田畠	近世	井戸	瓦棒・須恵器	
	集落	弥生時代中期	溝	弥生土器	
		奈良～中世	溝・土坑	土師器・須恵器・瓦	
	田畠	近世	井戸	土師器・須恵器・瓦	

要約	・第 47 次では、古墳時代前期前半(布留式古柏)・古墳時代中期末・飛鳥時代前期から平安時代前期の居住域を検出した。・第 48 次では、古墳時代前期前半～平安時代前期の居住域を検出。特に、隣接した第 47 次を含めて飛鳥時代前期から平安時代前期の独立柱建物を 16 基を検出した。・第 60 次では、古墳時代前期後半(布留式新柏)の祭起窓土坑・古墳時代中期末～後期前半の祭祀聚落遺構および古墳周縁の可能性がある構を検査。・第 70 次では、弥生時代中期・奈良時代～中世の遺構・遺物を検出した。
----	--

財団法人八尾市文化財調査研究会報告 130

東郷遺跡

- I 東郷遺跡(第 47 次調査)
- II 東郷遺跡(第 48 次調査)
- III 東郷遺跡(第 60 次調査)
- IV 東郷遺跡(第 72 次調査)

発行 平成 22 年 3 月

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581-0821 大阪府八尾市立町四丁目 58 番地の 2
TEL・FAX072-994-4700

印刷 (株) 煙斗秀興堂
〒577-0827 東大阪市衣摺6丁目20-10
TEL 06-6727-1166

表紙 レザック 66<260kg>
本文 ニューエイジ<70kg>

